

気象庁におけるGCOMデータ利用

- 衛星観測データは、気象庁の様々な業務において利用（検討中のものも含む）
 - 海面水温解析でのGCOMデータ利用
 - 海氷解析でのGCOMデータ利用
 - 黄砂・エアロゾル解析でのGCOMデータ利用
 - 火山監視でのGCOMデータ利用
 - 数値天気予報でのGCOMデータ利用
- 特に数値天気予報では、GCOM-W/AMSR2データを現業利用しており、大雨予測や台風進路予測の精度に大きく寄与
- GOSAT-GW/AMSR3の観測データでは、大気中の水蒸気の鉛直分布の情報が得られる。この情報を雲・降水域を含めて利用することで、更なる気象予測精度の改善が期待できる
- 高精度な気象予測のために、衛星観測データの継続的な利用が重要



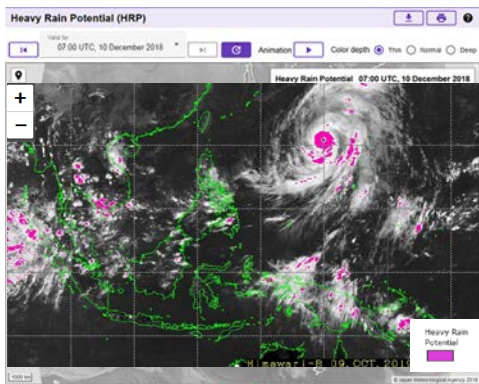
国際協力業務での衛星データ利用

- ナウキャスト地区特別気象センターでの衛星データ利用
- 熱帯低気圧地区特別気象センター（RSMC）東京センターでの赤外やマイクロ波の衛星データ利用

ナウキャスト地区特別気象センター RSMC Tokyo for Nowcasting

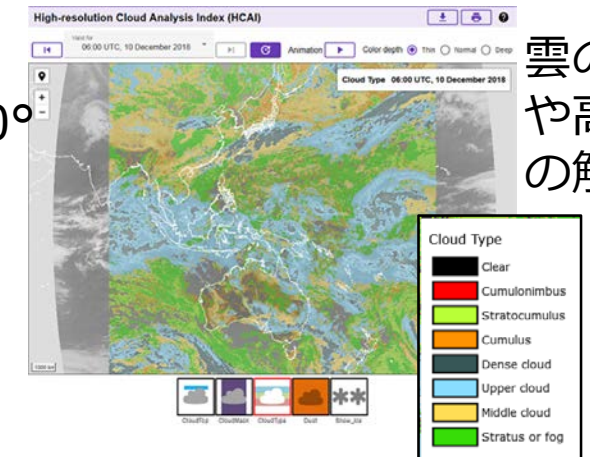
- 気象庁は世界気象機関の枠組みのもと、ナウキャスト地区特別気象センターに指定されており、アジア・太平洋地域の気象機関による気象警報等の発表支援を行っています。
- 現在、気象衛星ひまわりのデータを利用した2つの気象実況プロダクトを、同センターのウェブサイトを通じて、拡大と移動が容易なタイル画像表示方式により提供しています。

降雨ポテンシャル（強雨域推定）



- 降雨20mm/h以上の可能性のある雲域、10分毎更新
- 対象領域は北緯60° - 南緯60°、東経80° - 西経160°
- 実際の降雨とは異なり得ることに注意が必要
- ひまわり8号・9号の赤外放射計の観測データのうち6.2 μ m, 10.4 μ m, 12.3 μ mの輝度温度を用いて、対流雲のような厚く高い雲を検出

高分解能雲情報



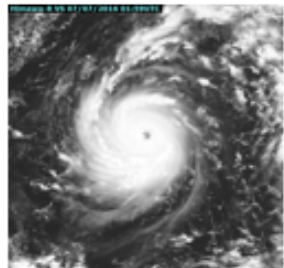
雲の種別
や高さ等
の解析情報

熱帯低気圧に関する地区特別気象センター-RSMC Tokyo Typhoon Center

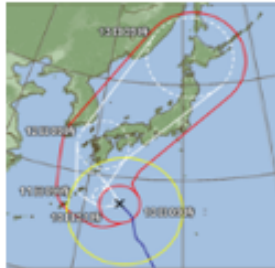
- 気象庁は世界気象機関の枠組みのもと、北西太平洋の熱帯低気圧に関する地区特別気象センターに指定されており、東アジア及び東南アジアの国や地域が行う熱帯低気圧の解析や予報への支援を行っています。
- その取り組みの一環として、アジア太平洋気象防災センターでは東アジア及び東南アジアの気象局を対象としたウェブサイトを開設して、様々な衛星画像や主な数値予報センターの数値予報結果等を提供しています。

台風解析・予報等の即時情報の提供

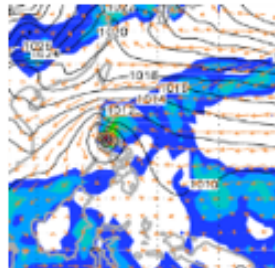
台風に関する解析や予報、予報の根拠、数値予測、気象衛星等の情報を域内の各国や地域にリアルタイムで提供。



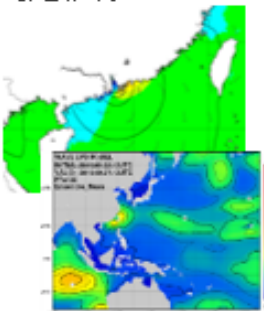
気象衛星



台風解析・予報



数値予測



波浪・高潮予測

台風に関する情報の提供及び技術協力

台風の事後解析、毎シーズンの台風の特徴、予報評価等の情報を提供、国際的なセミナーや研修を実施。



台風予報官研修



ひまわり画像利用研修

おわり